

総合海洋政策本部
海洋科学技術に関する研究会
報告書 概要

海洋科学技術研究会の目的・趣旨

1. 目的・趣旨

海洋技術開発大国として我が国が世界をリード

今後約20年間で世界に大きな影響を与える可能性のあるテーマについて、

- ✓ 今後の技術展開や人材育成の推進等に関する課題を共有
- ✓ 早急に着手すべきものを精査
- ✓ 海洋科学技術の今後の方向性を検討

我が国が注力すべき技術開発課題について共通認識を醸成

※2018年5月に策定された第3期海洋基本計画をベース
大きく変化する海洋科学技術を取り巻く環境や地政学的観点に留意

2. 具体的な内容・テーマ

EEZの開発・利用に必要な基盤的技術(海洋ロボティクス、ICT、海洋情報)中心
我が国の社会と技術の現状、民間における取組みにも着目
議論の進展によっては、必要に応じてテーマを追加する

研究会における意見(まとめ)

(1) 海洋科学技術において早急に着手すべき課題

- ・海洋産業は国際的にも成長(オイルとガスの生産がその大半を占める)
- ・周辺諸国の海洋進出や安全保障の観点からEEZ研究開発は極めて重要

そのような観点から、EEZ研究開発に研究開発資源を投入すべき、特に、

- ・AUVを含む海洋ロボティクス分野
- ・海洋情報分野

なお、AUVについては、第2期SIP「革新的深海資源調査技術」の進捗状況を踏まえて、関連する技術開発に、より積極的に取り組むなどの強化が必要

(2) 技術展開や人材育成の推進等に関する課題

- ・革新的技術への挑戦、必要な人材育成のための研究開発プロジェクトを支える枠組みが必要
- ・各研究開発プロジェクトに対して総合的な評価を行い、必要なものには既に措置されている研究開発資源に追加的に研究開発資源を配分し、早期の社会実装を目指す
- ・コスト便益を考慮した海洋科学技術政策の立案・見直しを可能とする科学的手法を確立